令和８年度　第１回　神奈川県立舞岡高等学校
学校運営協議会　議事録

《開催日時》

令和８年６月 30 日（火）　　於　舞岡高等学校　多目的室　　15：00～16：30

《　出席者　》

学校運営協議会委員　（敬称略）

明治学院大学文学部教職課程　教授		石井　久雄
舞岡地区連合会　会長		金子　昭
横浜市戸塚区役所保険年金課　課長		河合　利充
横浜市立日限山中学校　校長		馬場　理人
横浜スポーツ&医療ウエルネス専門学校 経営管理グループリーダー		松尾　信
ひぎり連合自治会　会長		宮島　由美子
神奈川県立舞岡高等学校　校長		宇田　雅則

舞岡高等学校　（９名）

副校長	（司会進行）	川上　司
教頭		清野　暁文
学習支援グループ　グループリーダー		遠藤　隆一
広報・研究グループ　グループリーダー		岡野　佑也
キャリア支援グループ　グループリーダー		大川　和裕
活動連携グループ　グループリーダー		松野　幸成
指導支援グループ　グループリーダー		小林　恒平
学校管理グループ　グループリーダー		中込　圭佑
業務アシスタント	（記録）	川村　昌子

《　欠席者　》

横浜市立ひぎり舞岡小学校　校長	鈴木　和枝
神奈川県立舞岡高等学校ＰＴＡ　会長	芹澤　順子

１　学校運営協議会委員委嘱

校長から学校運営協議会委員（出席者）に対して一括にて委嘱が告げられた。

２　校長あいさつ

学校運営に関しての委員から意見、協力をいただくことへの謝辞、また令和 13 年度金井高校との再編・統合の進捗状況と予定について資料を用いての説明があった。

３　学校運営協議会の開会にあたって

(1)　学校運営協議会委員及び事務局紹介

各委員の紹介と挨拶、学校事務局員の自己紹介があった。

(2)　学校運営協議会について

設置の目的（学校運営への参画や支援、協力の促進による学校運営の改善と生徒の健全育成)、方針の承認（学校は教育計画などの基本的な方針を作成して協議会の承認を得る）などの説明が司会からあった。

(3)　会長及び副会長の選出

各委員の互選により学校運営協議会会長に石井委員、副会長に宮島委員が選出された。

(4)　部会の設置について

本校では学校評価部会、地域連携部会を設置すること、各部会のメンバーは資料の「運営細則」のとおり指名することが提案され、承認された。また委員の互選により学校評価部会長に石井委員、副部会長に事務局川上が、地域連携部会長に宮島委員、副部会長に事務局清野が選出された。

４　協議

始めに本校の学校運営方針について、資料の「令和７年度学校評価報告書（実施結果)」を踏まえ、資料の「令和８年度学校評価報告書（目標設定)」をもとに、各グループリーダーから説明があった。

[学習支援グループ]

・当グループでは授業、成績に関する業務をメインに行う。
・まじめでおとなしい生徒が比較的多く、授業にもまじめに取り組んでいるが、自分から進んで取り組む生徒は少ない。主体的に学び、特に思考力をしっかり身につけさせたいが、難しい課題となるとなかなか取り組めない。
・教員は若い世代が多く、ＰＣや電子黒板を活用して、効率的な授業に向けた改善を積極的に行っている。
・引き続き、探究的な活動などが授業で行われるようグループでも取り組んでいきたい。

［広報・研究グループ］

・当グループでは広報活動、教育のICT化、教育委員会の指定事業である総合的な探究の時間の研究開発と探究学習の推進などの業務を行っている。
・広報活動では、学校説明会等を実施し、また地域連携委員を発足して地域の方との交流を図っている。
・教育のICT化では、電子黒板やロイロノートの利用についての研修会を今年度はすでに2回行っている。現状の継承と今後の発展のため、新しい教員も巻き込んで取り組む必要があると考えている。
・総合的な探究の時間の研究開発、探究活動の推進では、昨年度作った3年間の計画と昨年度の結果を踏まえ、今年度は更なる発展を目指して新しい教育を含めた研究を行いたい。実施にあたっては学習支援グループと協力し、授業改善でも成果を出したい。

［活動連携グループ］

・当グループでは学校行事、部活動、分教室との連携に取り組んでいる。
・体育祭は、台風により日程変更があったが、当初の設定どおり同じ週内で、地域の方々の理解を得ながらでなんとか執り行えた。
・9月は桔梗祭（文化祭）を予定している。27 日が一般公開で例年多くの方々に来ていただいている。昨年は 3,000 人超の来場者があり、体育館での演目や校舎内での喫茶などが好評であった。後夜祭では花火も復活した。今年も個別に地域の方々をまわってご理解を得たい。
・部活動には、73．9％が参加しており、昨年より増加傾向である。今年はすでに関東大会、全国大会進出を決めた部がある。3年間かけて行う大切な活動であり、地域連携を深める大切な行動である。学力向上とともに、学校生活の充実に向けて部活動を活性化したい。
・分教室との連携では、体育祭への出場や桔梗祭への参加で経験を共有している。直近では7月7日に行う七夕「竹の宴」で、切り出した敷地内の竹に舞岡生と分教室が共同で短冊を結ぶ。風情もあり学校生活の潤い与える行事で、盛大に進めたい。

［キャリア支援グループ］

・当グループは生徒に自分の現状を意識させ、卒業後の進路を考えさせるなか、大学関係者を招致しての説明会開催や、資格取得支援などの指導を行っている。
・今年度も、マンツーマンで学習をサポートする AIS（学力向上プロジェクト）を学習支援グループと共同で行っている。40 人クラスでの勉強では足りない部分をフォローし、学習アプリを活用させて生徒の進路実現をめざす。
・英検は今年度、平日実施にしたため大幅増の140名が受験したが、合格率は芳しくない。今後も平日午後などに日程も設定して生徒の資格取得を促す。
・5月 26 日は分教室が企画する田んぼ作業の実習に立ち会った。本校生徒会の生徒が参加し、自然豊かな環境のもとでインクルーシブ社会に触れるよい機会となった。

［指導支援グループ］

・18歳で成人となるにあたり、大人としての行動、姿勢について高校生のうちから指導していきたいと当グループでは考えている。
・登下校のマナーについて、南舞岡小出身で本校前の交差点を使っていた生徒もいると聞いている。近隣小学校統合により、児童の通学の妨げとなる危ない思いをさせぬよう、交通ルールをしっかり守らせる指導している。戸塚警察署の講師の方に、自転車の青切符に関すること、交通ルールの変更など説明をいただいたが、地域の方々からは自転車マナーに関してときどきお叱りを受けている。HR 等での指導を続けたい。
・4月以降、本校生徒の大多数はきちんと学校生活を送っているが、少ないながら素行やスマホの扱いで指導が必要な生徒もいた。 昨年も SNS 上でのトラブルがあり、講習会で意識改革を図った。
・生徒、保護者の教育相談件数は少なくない。SC、SSW と話すことで少しでも悩みを解消し、卒業して次のステージに進んでも学習、仕事がしっかりできるよう支援していきたい。

［学校管理グループ］

・当グループが担う業務のうち、資料の目標設定に関連するのは環境美化活動と防災関係の業務となる。
・環境美化活動については、日々の清掃活動を真面目に行う生徒が多い。トイレや廊下などの共有スペースに関して一部生徒の利用に課題あるため、指導、改善を図っていきたい。
・防災関係では、先月、県総合教育センターの防災教育研修に参加した当グループのメンバーから、学ぶことが多かったと聞いた。近頃地震が頻発しており、生徒も興味があるようなので、10 月に実施を予定している避難訓練などを充実させ、しっかりと取り組んでいきたい。

続いて出席委員から一巡する形で質問、意見が出され、質問に対しては学校（事務局）から回答した。

・（石井委員）毎年申し上げているが、舞岡高校では多く生徒が活躍できる場面が多数用意されていると感じている。1000 人近くの生徒がいるので、いろいろあろうと思うが、舞岡高校では深刻な不登校、いじめなどはあるのか。大学で生徒指導を教えているが、大学にも 1 割は不登校を経験したことのある学生が入ってきている。高校で不登校になっても大学の道が閉ざされるわけではない。
→（事務局小林）不登校生徒は数名おり、SC、SSW に相談して回復する子もいる。どうしても本校と合わない場合は転校を勧めている。いじめについては、やはり SNS によるものが昨年もあった。一応決着を見ている。

・（金子委員）地域活動にいろいろとご協力いただき感謝を申し上げる。通学マナーに関しては、登校時はあまり問題はないが、下校時に八幡宮前あたりでふらふらしている、道いっぱいに広がって帰る生徒がいるようだ。気になることとして、18 歳で選挙権が与えられるが、授業や先生達の指導はあるのか。
→（事務局岡野）2年公共の時間で選挙の仕組み等を学ぶ。県から選挙に向けて模擬投票をさせるよう指示もあり、卒業までには全校生徒が経験できる。

・（河合委員）先ほどの説明で、自然環境が気に入って入学する生徒もいるとのことだが詳しく知りたい。授業もあって大変だろうが、地域に関わる立場として、自然との関わりも重視してほしい。気になることとして、地震などの災害が起こった時の高校の位置づけ、役割などはどうなっているのか。
→（事務局大川）本校は入学者選抜で面接を実施しているので、その時に本校周辺の環境が気に入っているという発言が多い。
→（事務局川上）避難所は小・中学校での開設が基本。横浜市内の全県立高校は避難所に避難者があふれた場合の補充的避難所として市と協定を結んでいる。昨年度末、災害時に高校が自衛隊や消防などの活動拠点としても活動できるよう協定が改定された。

・（馬場委員）日限山中学校は体育館改修工事に入っている。体育館を地域で共有しているので今後とも提供のご協力をお願いしたい。本中学には毎年、舞岡高校の初任者が研修に来られるが、若手の人材育成が気になるところ。また、雷のときの対応が決まっていれば知り

たい。本中学では対応が不十分で、生徒を帰らせたことがあった。
→（事務局清野）落雷のマニュアルはないが、発生時は校内放送を入れて屋外の活動を禁止している。
→（事務局松野）あくまで安全第一で校舎内への避難などの対応をとっている。雷がおちついたら、速やかに帰宅させる。光化学スモッグなどと同様、管理職との話合いで決定する。

・（松尾委員）ICT教育はいい取組みだ。専門学校でもやっている。小テストもICTで行っていたが、覚える力が弱まってきたため紙に戻した。習得率は紙のほうが高いようだ。紙ベースに戻したほうがよい場合もあるがいかがか。問題づくりではAIが時間短縮に役立っているのは確かだ。スポ―ツ分野の学生は男子が多いが、奨学金の制度を承知していない学生もいる。親への周知などは徹底が難しいが、舞岡高校ではどうしているのか。突然の荒天時に帰宅させるガイドラインはあるのか。
→（事務局遠藤）ICT活用については感覚的にはおっしゃるとおり。数学を教えているが、手を動かすことが大事、必要なのでデジタル化はなかなか難しい。デジタル教科書が法律でも決まったものの、海外では紙に戻した事例もあるのは承知している。
→（事務局清野）ICTの活用で授業の効率を上げて時間を節約できると、その分協働による活動が進められる。
→（事務局大川）奨学金についてだが、きめ細かく案内している。6月の保護者面談で話題になるので、その後、生徒向け説明会を設定している。保護者には生徒への説明、通知を連絡システムで伝えている。
→（事務局遠藤）荒天時の対応だが、5月下旬に気象警報のシステムが変わった。本校には古い警報に合わせたマニュアルしかなかったので、学習支援グループで新しい対応マニュアルを作成し、レベル4以上で自宅待機とした。ただし、登校後のマニュアルはない。登校後、線状降水帯の発生などの情報を早めに仕入れ、危険の状況を見ての判断が必要となろう。

・（宮島委員）AIS は素晴らしい取組みだ。資料からも学力がアップしていることがわかる。どのくらいの活用があるのか。また生徒は自分で希望して受けているのか。3年生向けに地元出身プロ棋士瀬川さんの講演が舞岡高校では以前から行われている。生徒達の反応はどうか。
→（事務局遠藤）AIS 参加生徒は 10～20 人弱。基本的には一人の生徒を一人の教員が見るので、あまり大人数は対応できない。生徒は自分で希望して指導を受けている。
→（事務局岡野）瀬川さんの講演についてだが、生徒達はとても集中して聞いていた。今年度もお話が聞けるのであればぜひお呼びしたい。
→（事務局清野）講演は生徒が自分の将来を考えるうえでとても参考になっている。

５　部会打合せ

委員、事務局員とも「細則」に従って学校評価部会、地域連携部会に分かれ、それぞれのテーブルで意見交換を行った。

〔学校評価部会〕

（AIS（学力向上プロジェクト）について）
・AIS はすごくいい制度。先生方には教科がある。教科で希望の偏りが出ないか心配だ。
・教科の学習というよりは学習のペースづくりを主眼に指導している。サプリをやらせて進行状況のチェックを行っている。
・なるほど、学びの伴走ということですね。重要な取り組みだ。高校では一般的なのか。
・おそらく独自の取組み、少なくとも制度として行っている学校は他にないのでは。
・学生から勉強会をやるので場所と担当者が必要と言われた。高校ではよくあることなのかと思った。
・よい制度なので大々的に宣伝したほうがいい。先生の負担はある意味大変だろうが。
（「探究的な学び」について）
・中学とは違って高校は専門性も高く、相当深く掘り下げられると思う。大変だろうがぜひ頑張ってほしい。
・昨年度はこの時間、総合的な探究の時間の研究発表を生徒二人にやってもらった。今年もぜひ聞かせてほしい。
（不登校生徒、高校無償化、通信制高校の影響について）
・専門学校に進学してくる学生からは、いわゆる普通の高校に通うという常識がなくなっているように感ずる。フリースクールの切り込みも強いようだ。
・高校無償化が受検倍率に及ぼす影響も大きい。通信制高校も増えている。
・中学では３年生の１割近くが無理せず通う生徒で、進学はサポート校に流れる。今春は無償化で私立の特定校が大人気だった。それでも本中学は影響は少ない。

〔地域連携部会〕
・納涼祭では、舞岡高等学校ダンス部の活躍が、例年素晴らしいものとなっている。
・投票所では、高校１年生からお手伝いができるので、選挙への意識を高めるためにも高校生に進んで参加してほしい。
・台風のときの規定の作成には、登校下校両方の判断について、どの組織も苦労しているが、セーフティーファーストが基本である。
・料理研究部中心に、鎌倉パスタとのコラボメニューは続けてほしい。広報誌等への掲載で、地域でも話題になっていた。
・集団避難訓練への参加は、生徒が緊急時に自分たちでやるべき仕事を見つける機会となるので、進んで参加してほしい。

６ 事務局から
司会から、今後の日程について説明があった。

７ 閉会
校長から、フリートーキングで行われた部会では様々なテーマが取り上げられて話が深まり、いい知恵が得られたと委員への感謝の言葉があった。